奈良県立大学　鹿児島県与論町との連携事例

自治体の課題（ニーズ）



近年、アストロツーリズム（星空観光）に注目が集まる中、離島や中山間地域において、星空は重要な観光資源の1つとなってきている。一方、そのブランド化には、国際的な認証制度である星空保護区®が有効であるが、認証のためには地域に設置されている公共の防犯灯の多くを星空に配慮した光害対策品に交換しなければならない。

鹿児島県の与論島は国内屈指の星空を有しながらも、島全体で観光空間と生活空間が重なっており、日々の暮らしに必要不可欠な数百本の防犯灯が、星空観察の妨げとなっている。そこで、既存の防犯灯の交換が必要となるが、対策品が高価であるため、その普及が課題となっていた。

研究成果（シーズ）の還元





与論島に設置した防犯灯と星空

光害の防止策として、「地上を明るく照らしながらも美しい星空を守る新しい防犯灯」の開発を、濱田プレス工藝株式会社との共同研究で行った。

島に既存の621本の防犯灯のうち、R6年度に95本を交換し、R7年度に172本を新しい防犯灯に交換中である。交換前後の星空の暗さを継続的に観測したところ、夜空の光害成分を減少させることに成功し、明らかな星空環境の改善を確認した。

観光と生活空間が重なる与論島は、持続可能な観光を考えるうえで重要なフィールドであり、今後も同島のアストロツーリズムの振興を支えていくとともに、全国各地の星空観光を光害対策だけでなく、観光商品の造成まで含めて支援していきたい。

■　この連携に携わった研究者



尾久土　正己　学長

（研究者からのメッセージ）

持続可能な星空観光の実現には、光害対策といった「環境」面だけでなく、観光事業者が商いとして自立できる「経済」面と、地域住民の理解や地域に根付く文化などの「社会」面、つまりトリプルボトムラインがバランスよく折り合いをつけるようにならないといけません。奈良県立大学は地域創造学部の単科大学ですが、これら3つの観点から支援できる研究者を幅広く揃えていますので、お気軽に相談ください。

※　研究者の経歴等は（URL：https://researchmap.jp/okyudo ）をご参照下さい。